

## 【R6 内中原小学校の研究について】

今年度の研究について

○今年度の柱・・・2つの柱を設定

1. 基礎学力の定着と対話力の育成
2. 「かんがえぬく子」を育成する授業実践

1 基礎学力の定着と対話力の育成・・・朝学習の時間を有効に使う

○朝8時25分～35分

月	火	水	木	金
朝読書	朝学習	対話タイム	朝読書	朝学習

- 対話タイム**・・・スリンプルプログラム（6月の校区合同研修で実施予定）  
ソーシャルスキル・トレーニングで学級作りと対話力の育成  
・アドジャン（テーマトーク） ・どちらを選ぶ？（二者択一）
- 朝学習**・・・情報モラル教育（月1回程度）、タブレットドリル、タイピング練習、プリント、ドリル学習など

- ★全校で統一して、静かに学習する雰囲気朝学習でつくる
- ★対話力の育成を図りながら、学ぶ集団づくりも行う

2 「かんがえぬく子」を育成する授業実践

○目指す子どもの姿

「学びのプロセスを大切にして、主体的に学び続ける子」→

「かんがえぬく子」の育成

どんな子？

①課題を解決するために、自分の考えをもつことができる子

②友達から学びを得て、自分の学びを深める子

③学んだことを生かし、アウトプットできる子

- ・数直線を使って表そう！
- ・この間勉強した〇〇を使ってみよう！
- ・昨日の学習を使っても、今日の問題はできない…

- ・そういう考えもあるのか！
- ・〇〇さんの考え方で解くともっと簡単にできる！

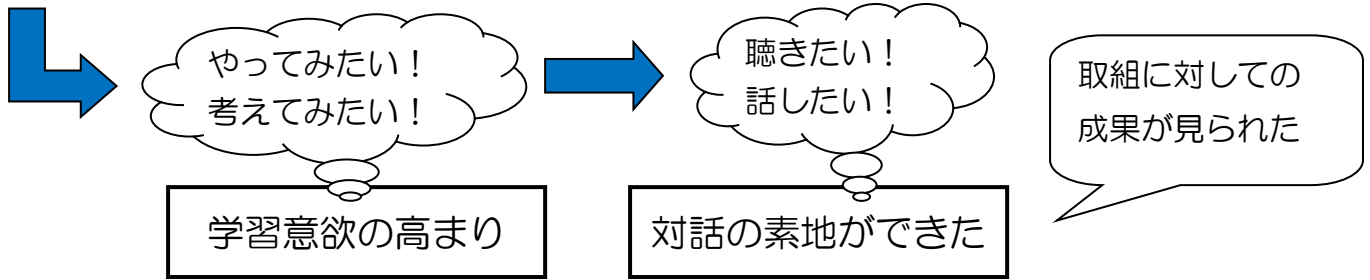
- ・〇〇を学んで、自分は〇〇ができるようになった！
- ・パワーポイントを作って、学んだことを発表したい！

「かんがえぬく子」を育成するための具体的な取組 = 研究の視点

## ①子どもの実態に合わせた課題設定や教材との出会いの工夫

【昨年度の取組より】

- 本時の課題につながる時事問題の提示
- 自分で考えた嘆願書と実物とを比べて気づいたことから問いを生み出す（同和問題学習）
- 生活経験を想起させ、自分と教材をリンクさせる



## ②子ども同士をつなぐ関わり方や場の工夫

【昨年度の取組より】

- 「対話」について目指す子どもの姿を、学年ごとに具体化して指導をした。

1年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• じっくり聞く力・語彙力の高い子</li> <li>• クラスの仲間を大切にし、自信をもって取り組む雰囲気づくり</li> </ul>
2年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まずは「聴く」を大切にし、一部の子ではなく、全員がしっかり聴ける、反応できるようになる。</li> <li>• 同じ部分、違う部分を考えながら聴く子</li> </ul>
3年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手の言葉に反応する子</li> <li>• 自分の言葉で説明する子</li> </ul>
4年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 互いに反応し合い、話をつなぐ子</li> </ul>
5年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えをもって話し合いに参加する子</li> <li>• 相手の考えを受けての発言をする子</li> </ul>
6年部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の考えと自分の考えを比べながら聴く子</li> <li>• 質問したり、反論したりできる子</li> </ul>
スマイル部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それぞれの実態に合う形で取り組む</li> </ul>

【振り返りより】

- 対話の必要性を子どもに感じさせる発問の工夫について考えていきたい

## ③めあてに対するふりかえりとその活用の工夫

新たに加えていく

【振り返りより】

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもが自分の言葉で、学んだことを表現できるようにしたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもへのふりかえりの活用の仕方や、つけた力をどのように見取るのかが難しい。</li> </ul> |
|---|--|

- ふりかえりの視点を与える。
- 表現する方法の工夫  
(例) ○○発表会  
新聞にまとめる  
パワーポイントにまとめる

- 単元通して、または本時で、子どもにつけた力を明確にする。＝具体的な子どもの姿
- つけた力が身についた児童の姿とはどのような姿かをより具体化し、本時の評価に示す。  
(例) 期待する児童のふりかえりを、児童の言葉で表す。  
「課題を解決するために、○○を使うと分かりやすい。」  
「この勉強を通して、○○な力が身についた。」

## ○今年度の研究の視点

②③重点項目

- ①子どもの実態に合わせた課題設定や教材との出会わせ方の工夫
- ②学びを深めるための対話の工夫（場の設定、発問の工夫等）
- ③ふりかえりの工夫（視点の明確化、学んだことを表現する方法の工夫等）



## ○研究テーマ

「対話を通して、主体的に学びを創る子どもの育成」

## ○研究の進め方

- ・重点を置いて研究する単元や題材を学年部で決め、研究の視点について、どのような手立てを行うかを考えながら、教材研究と授業実践を行う。
- ・授業実践後は、本時の評価をもとに、有効だった手立てや改善すべき点を学年部で協議し、授業改善を行う。協議の内容は記録に残してもらう。
- ・指導案、授業記録、協議の記録を研究のまとめとし、前年度までの研究だよりを廃止する。（各学年部でフォルダーを作り、そこに保存してもらう。）